

南湖に放流したホンモロコ標識魚(平成 25 年度放流群)の追跡調査

太田 滋規

1. 目的

かつてホンモロコの主要な産卵場であった南湖は、現在ほとんど産卵が確認されなくなっている。そのため、産卵繁殖場から北湖までの連続性を確保した水草刈り取りおよび標識種苗放流を行い、南湖での再生産を回復させる取り組みを行っている。水産試験場ではこの事業で放流された種苗(以下南湖放流魚)を追跡調査することにより、南湖から北湖への移動分布の把握と産卵状況および親魚来遊状況調査によりホンモロコ再生産を確認し、増殖促進効果を実証する。本項では平成 25 年に下笠地先で放流されたホンモロコの追跡調査を報告する。

2. 方法

①親魚来遊状況調査：春期(3~6月)に、南湖で漁業者の傭船による刺網調査を行った。3月は稚魚放流地点付近と南湖一円地先の2地点を3回、4月以降は稚魚放流地点と山ノ下湾沖の2地点の調査を各月1回行った。採捕されたホンモロコ親魚はALC耳石標識を確認した。

②産卵状況確認調査：春期(3月中旬~6月下旬)にほぼ毎週1回、稚魚放流地点付近や下笠造成ヨシ帯を中心として、産卵の有無を調査した。

3. 結果

①親魚来遊状況調査：ホンモロコ親魚は大津市衣川沖、草津市下物町沖、草津市下笠町沖で計72尾が採集され、そのうち21尾が南湖放流魚であった(図1)。それらの南湖放流魚は全て放流場所付近である下笠沖で再捕された。

①産卵状況確認調査：述べ15日間の調査の結果、4月17、25、30日、5月16、21日に放流場所付近のヤナギの根に小規模な産卵が確認された(図2)。他の場所での産卵は確認できなかった。

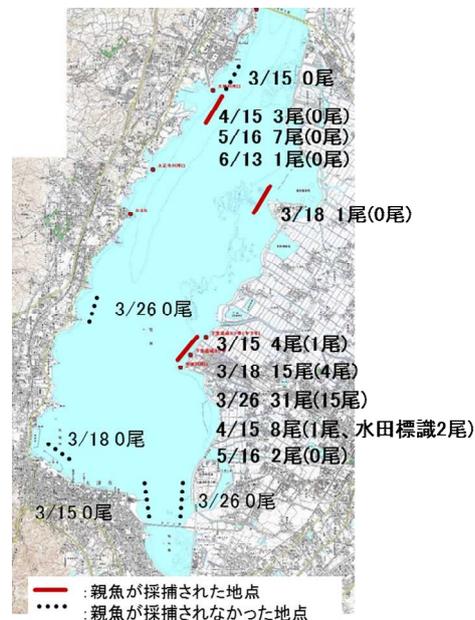


図1. 南湖での刺網調査地点とホンモロコ親魚採捕尾数
()内は南湖放流魚の再捕尾数



図2. 産卵状況確認調査地点
●は産卵確認された地点